

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

《安倍能成著『戦中戦後』から抜粋》米國教育使節團に對する挨拶

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-04-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 安倍, 能成, ABE, Yoshishige メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://repository.ninjal.ac.jp/records/3776">https://repository.ninjal.ac.jp/records/3776</a>

## 米國教育使節團に對する挨拶

淑女並に諸君

相互扶助の好意と熱情とに燃えて、遙々太平洋の波濤を越えて到着せられた所の、貴國教育界の最高水準を代表せられる諸權威に對して、こゝに歡迎の辭を述べますことは、文部大臣たる私の最も光榮とし歡喜とする所であります。この稀有な幸福な機會を利用して、外交的、社交的儀禮の詞でなく、率直にして飾なき心からの詞を交換せんとする私の願は、又諸君の諒とせられる所だと信じます。我々の卓越せる尊敬すべき賓客が此度我國を訪問せられるに至つたのは、世界歴史的事件の攝理的結末の生んだ一つの出來事であります。この事件に於いて不幸にも我國は貴國を敵とし、さうして今や貴國と我國との間は戰勝國と戰敗國との關係にありま

米國教育使節團に對する挨拶

す。この關係は正直にいつて少なくとも我々自身にとつて決して好ましい愉快な關係でないことはいふまでもありません。併しこれは我々の戦争の過誤より生じた必然の冷厳な結果でありまして、今更嘆いても及ばぬ事實であります。その上他方から考へますれば、日本は貴國と此上ない望ましからぬ關係にあると共に、又今までになく相接近して居るともいへます。戦争は人類の最も悲しむべき最も厭ふべき事件であると共に、戦争によつて國民が一層相近づけられるといふ事實をも看過するわけには参りません。現に我國の敗戦の結果、未だ嘗て見ざるほどの多數の貴國人が我國に來られ、我々は到る處に彼等の姿を見、聲を聞き、彼等の考へかたにも生きかたにも觸れて居る上、我國の政治も經濟も文化も教育も悉く貴國人の管理を受けることになつて居ります。それが我々にとつて名譽でないことは否定されませんが、貴國人との接觸がこれによつて益々頻繁になり愈々深刻になつたことも亦、拒むべからざる事實であります。現に我々の日々の物質的並びに精神的生活は貴國並びに貴國人の影響を離れては考へ得られぬに至りました。さうして今日かうして諸君を迎へるに至つたのも、上述の多くの場合の一つであることはいふまでもありません。戦争の終つた時、日本人の或る者は、貴國始め聯合國

が非常な重壓を以て臨むであらうと考へました。日本には「勝てば官軍、負ければこれ賊」といふ諺があります。勝者の爲す所は何事も善とされ、敗者のなす所は何事も皆主張され得ない、即ちこれは最も通俗な意味に於て、"Whichever is right" の主張であります。勝つた聯合國に對して武力なき日本は唯屈服してその命する所に従ふ外はないといふ考へ方であります。又他方戰爭中軍國主義の壓迫を受けた自由主義者達は、聯合國を自分達の救世主の如くに考へ、自分達の春が俄かに來たかの如き錯覺に陥り、我國が降伏國なることを忘れて、我國の將來が聯合國の助力によつて安易に打開されるかの如く考へました。我國がこの戰爭によつて冒した過誤と罪惡とによつて、自國と世界とに與へた不幸と犠牲とは、一方に改宗者の如き心持を以て、これを悔い改めねばなりません。同時に降伏國たる我國の地位を神の與へた試鍊と考へて、これに堪へ、これを凌ぎ、これに打ち勝ち、今日の禍を明日の福とせねばなりません。さうして貴國が戰勝國たるがゆゑに正義と眞理とを枉げることなきを信じ、その戰勝國たる重壓が——率直にいつて我々はこの重壓を感じずには居られません——我國に於ける正義と眞理との滲透を促進し、我國の社會に存する様々の不正や缺陷、國民の性格や習慣に横はれる様々の弱點や惡弊

を速かに力強く除去する一つの契機となり、又我々の降伏國たる地位の自覺が、翻つて我國民に謙遜なる反省と徹底せる自己改善とを促す拍車とならんことを念願するものであります。これを要するに、我々は戦争によつて與へられたる貴國及び貴國民との接觸を、我々の努力によつて、又貴國側の戰勝國として尙且與へ得べき好意によつて、出來得るだけ善い有意味な接觸たらしめんとするものであります。御察しの如く、戰敗國たり戰敗國民たることは苦しい試練であり、困難な課題でありますが、同時に敢て失禮を申せば、よき戰勝國たり戰勝國民たることも中々困難であります。我々は戰敗國として卑屈ならざらんことを欲すると共に、貴國が戰勝國として無用に驕傲ならざるを信する者であります。さうして諸君の來朝が我々の上の願を充たす最上の機會とならんことを切念するものであります。

この悲惨なる敗戦の後、我々の國民は俄かに教育に眼を注ぎ、我國今日の結果が教育の過誤と缺陷とに基づき、又我々の個人としての教養の低きによるといふことを痛感し、今更の如く教育の重大性に氣づける有様であります。併し教育が恒久的な困難な事業であるといふ自覺、又この教育の重大性を實にする行動や施設に於いては、未だ十分でなく、徒らに不用意に學校

を増設するを以て即ち教育の振興だと考へて居る傾もあります。從來我國の教育には、教育を  
のものの不完全、不備、誤謬もありましたが、それよりも教育の置かるべき位置についての自  
覺が乏しく、それが一面からは教育の獨立を害し、教育者をして良心と信念とを以てその仕事  
に従事せしむるを得ず、その時々、國家政治の淺近な方便に用ひられるといふ弊を生みました。  
即ち本來政治を支配すべき教育が却て政治の奴隸となつたことであります。又他面上の事情と  
關聯して、教育が政治や社會の現實生活と遊離し、これに滲透しこれを左右する強い力となり  
得なかつたことであります。この弊害より見て、アメリカの我國に要望する民主主義化は、教  
育と教育者とに於いて方に最も本質的な正しい意味に於いて實現されねばならぬと信じます。  
併し貴國の要望する日本國民生活の民主主義化は、今や非常なジャーナリズムの噪音を伴つて  
全國を風靡するかに見えます。戰爭中に重ねられた無理、自由の拘束の反動として、國民は極  
端より極端に走り、思想界は動もすれば真空状態に陥るか若しくはアナキーの危険に直面し  
て居ります。これは戰爭殊に大戰争の後、中にも敗戰國には免れ難い現象ではありますが、こ  
の事も結局は正しい世界觀に基づいた教育の手薄、人格の確立、個性の尊重の缺乏によるので

あつて、我が國教育の根本的弱點がこゝに暴露されたことは否定し難き事實であります。併し日本國民をして普く眞に自由の何たるかを覺らしめ、教育をして日本人を眞理と平和の使徒たる道に進ましめるには、この戦敗は却て好き天與の機會であつたともいへます。吾我々は必ずこの機會を無駄にしてはなりません。降伏後我々はこの意味での日本教育再建の爲に日夜努力致して参りました。戦争による疲弊と恐るべき荒廢の事情の下に於いて、克服すべき障碍と解決すべき難問とは山積致して居ります。戦災學校の處理、戦時中に歪められた變態現象の復舊若しくは是正、其他當面の一時的問題以外に、我國に於いて最も缺けたる社會教育、及びその設備たる圖書館、博物館、劇場等の貧弱及びその運用の不完全の補強、民衆の知的道徳的啓發、健全なる娛樂の提供等、なさるべきことは限りもありません。さうして戦後の我國の社會生活、政治生活、經濟生活の基調、従つてこれが根幹たるべき教育の基調が民主主義にあるべき所以は、それが單にアメリカによつて強要されたるが故でなく、それが天地の公道に根ざし、人間の性質の本質に基づくからだと信じます。正しい民主主義が個人と社會との關聯の正しい自覺に基づくべきは勿論であつて、個性の尊重と社會の協同、自由と責任、權利と義務とが離すべから

ざる關係にある筋合を十分に理解しないことが、我國の民主主義運動を淺薄な根柢薄きものと  
し、社會的公民的道德の缺乏を來して居ることは否定出來ません。この點に於いて我々は先進  
國たる貴國から學ぶ所の多かるべく、殊にその根本たる教育に於いてその然るを覺えるもので  
あります。從來我國人は動もすれば貴國の皮相をまねび、單にジャズと映畫とグラマーとの國な  
るかに考へ、貴國文化の本質について多く知ることがありませんでした。これが我國の今日の  
不幸なる状態を來した重大な原因の一つたりしことも又否めない事實であります。私は私の尊  
敬する友人なる前田君の後を受けこの職に就いてより、わづか二箇月足らずに過ぎませんが、  
幸に司令部に於ける貴國の教育部は、我々に對して十分なる理解と同情とを持たれ、又始終率  
直なる忠言と親切なる協力を惜しまれず、我々はこれによつて大いに激勵され、これに對し  
て衷心感謝の意を表してゐます。我々は諸君の來朝が我々の已に有し來つたかゝるよき關係の  
最も重要な一節となることを念願してやみません。教育はあらゆる人間の深い生きた精神的文  
化の然るが如く、普遍的人間的なると同時に極めて個性的なるものであります。詳しくいへば  
理念に於いて普遍的たると共にその實現に於いて極めて個性的であります。これは人間の最も

深き要求たる宗教に於いて最もよく現はれて居ることは、諸君の御承知の通りであり、人間の性格が普遍性と個別性との解きほごせない最も靈妙な結合たるに基づくものであります。

戦争中我國に於いては極端な國家主義、民族主義が勢力を得ましたが、本當をいへば、最もよき意味に於ける國民的といふことは、最もよき意味に於ける國際的といふことと離しては考へられません。これを文化に就いて考へましても、最も獨創的な文化は、常に外國文化の刺戟の最も旺盛な所に生れて居ることは、諸君の御周知のことです。この故に過激國家主義的な文化も教育も、本當の意味に於いて健全な國民性を養成することはできません。普遍人間的な世界的な教養といふ理念を地盤としてこそ、各人の個性も各國民の國民性も始めて健全に成長してゆくものと信じ、この意味に於いて私は今や根本的な方向轉換を遂げんとする日本の教育の將來に對し、又日本文化の獨特なる開花に對して希望をよせて居るものであります。

これに關して諸君の注意を願ひたいことは、戦敗の結果日本が明治の初以來未だかつてない八方塞りの状態に置かれて居ることです。これは我々の過誤に對する一つの責罰として已むを得ざるものであり、我々の向後の平和的な努力によつて逐次打開されることを信じます

が、併しこれが又諸君の御助力によつて一日も早く實現せられ、日本が自由に世界の書籍を讀み、知識に接し、世界の事情を知り、世界を見、世界と交はることが出來、日本の教育がかくして常に世界から刺戟と啓發とを受けんことを切に希求します。さうして我々は諸君の來朝をも、上に述べた打開の顯著なる一着手なるを信じ、それが更に後に來るものを導き出す強い動力とならんことを念じます。第二に希望したいことは、民主主義が個性の尊重と人間の平等とを兩立せしめんとする如く、一國の文化や教育が國際性と同時に國民性を尊重しなければならぬのは明白なことであります。國民的迷信殊に極端な國家主義的政策に基づいて拵へられた虚構の歴史や神話の非學問的解釋の如きが、排斥されるべきは勿論でありますが、國民の中に生きてゐる傳統の特異性は尊重せられねばなりません。この意味に於いてアメリカが、アメリカ的見地を以て簡單に日本に臨むことのなからんことを願ひます。かゝる態度で日本が朝鮮や支那に臨んだことが、日本の失敗であつたことは諸君の御承知のことです。アメリカは戰勝國として日本に對して言はば何事をもなし得る便宜を持つて居られます。この位置がアメリカ的或は西洋的特殊性を簡單に日本に強制するに至らざらんことを期待するのは、決して不遜な

願ではないと信じます。而もこれは失禮ですが戰勝國民が無意識的意識的に侵し易い過失でありまして、かくしては日本の地についた日本人を眞底から動かす本當の教育も出來ず、又文化も成長しがたいと思ふのであります。又日本に來て居られるアメリカ人の中には若い理想主義者があつて、彼等はアメリカに於いても未だ實現せられない抽象的理想を、日本を實驗場として性急に試みんとされる傾きもありません。日本人が虚心坦懐にアメリカの與へてくれる勸告を受け、在來の教育に思ひ切つた改革を加へると共に、その受容が日本人の良心と批判とを以てなされねばならないことは、諸君の夙に諒とせられる所でありませう。

第三に申上げたいのは科學的研究の事であります。舊い日本の缺陷が科學にあり、近代日本の最も熱心に求めたのは西洋の科學であります。さうして日本の將來の平和的努力の中軸が科學的研究にあるべきはいふまでもありません。聯合國が日本にとつて不可能なる、又日本人の望まざる軍事的再起に對する配慮の爲に、この日本人の平和的貢獻に對する努力の過大に不當に制限せられざらんことは、文教當事者としての私の最も切實なる願であります。前にも申す如く總て理念に於いて普遍的人間のなるものが、その具體的實現に於いて、その民族的性格に

より、その歴史により、その傳統により、各、特殊なる姿を呈するのは、當然の事實であります。されば諸君は滯在中我が國民の特徴或は缺點を認識されます時に、その民主主義的教育が貴國に於けると全然同様には行はれ得ないことに氣づかれることと存じます。茲に諸君に希望したいのは、今日の日本の状態を以て、直に日本本來の永久な姿、判断せられないこととであります。我々は日本人の現状に對しては諸君に誇るところか實に恥かしい思ひを致しますが、これは長い年月の無理な戰爭の結果による窮乏と疲勞とによるものでもあり、又戰爭中強制的に協力の義務を課せられて而も戰敗の結果それに報いられる所のなかつた民衆の權利要求が、過激に流れ、秩序と混亂とを來して居るのも、一時的には已むを得ざる自然的必然性でもあります。日本人の過去の文化が國際的でなかつたのは、その性格にもよりますが、又國際的接觸を受ける機會を恵まれなかつたのにもよります。我々は明治の初年以來受容れた西洋文化を更に深く本質的に批判的に受容れることによつて、日本文化の將來に於ける世界的國際的進出に對する希望を抛棄しないものであります。

我國が過去に犯した過誤に拘はらず、我が教育界に於いて、戰時中にも、十分力強くはな

つたが尙良心的要素が保有せられて居り、その爲に教育界の一部が他の全體主義的國家に比較して健全を保持して居た事實、この要素が日本教育の將來の再建に重大な役割を演ずるだらうといふことに就いても、諸君の注意を喚起したいと思ひます。

我々は併し決して我々の文化や教育の特異性をその特異性自身の爲に固執するものではありません。我々は廣く眼を世界に開き、謙虚の態度を以て缺點を反省し、諸君の忠言に傾聴し、改むべきものは大膽に改めたいと決心して居ます。我々の眼に閉されてゐた缺點は、執はれざる新來の客のフレッシュな感覺に依り、容易に的確に發見せられることの多々あることを信じます。我々は諸君の知慧と經驗とに信頼し、冷靜な客觀的態度を以て我が教育制度やその内容その實行方法を検討し、永遠の使命を果すと共に現實の要求を充たすべき教育の實質的改善の端緒を開くことに貢獻したいと思ひます。

終りに我々是我々の尊敬すべき賓客の比較的短い滞在が、總ての物質的窮乏にも拘はらず、我々の誠實なる善意といふ精神的贈物に依つて、出來るだけ快適なものとなり、諸君のこの度の歴史的訪問が、米日兩國の永遠の精神的紐帶の復活と強化とに、更には世界の平和と人類の

福祉とに貢献することを切望してやみません。(昭和二十一年三月八日)

米國教育使節團に對する挨拶

三三一